

19m04教育方法論m 解答例

1 教育技術をめぐる論争

教育方法論 m 第 回

テーマ「教育技術」4班
をめぐり論争

(1) 「新しい時代の教育方法」から
全体の要点● 共有化問題

- ポイントD 「教育技術」の法則化運動の展開(向上昇一)
- 2) 教材研究と産開つくりの関係(文芸教育研究協議会)
 - 3) 授業つくりネットワーク運動の発足
 - 4) 授業技術は共有財産になり得るのか

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から/
全体の要点● 定義なし

- ポイントD 授業内容の基本は学習指導要領から
- 2) 教育技術は知識や経験から
 - 3) 教える方と定義するものはない
 - 4) 教育技術は共有財産にはならない?

(3) その他のネット資料から長所・短所
全体の要点● 現代の法則化運動

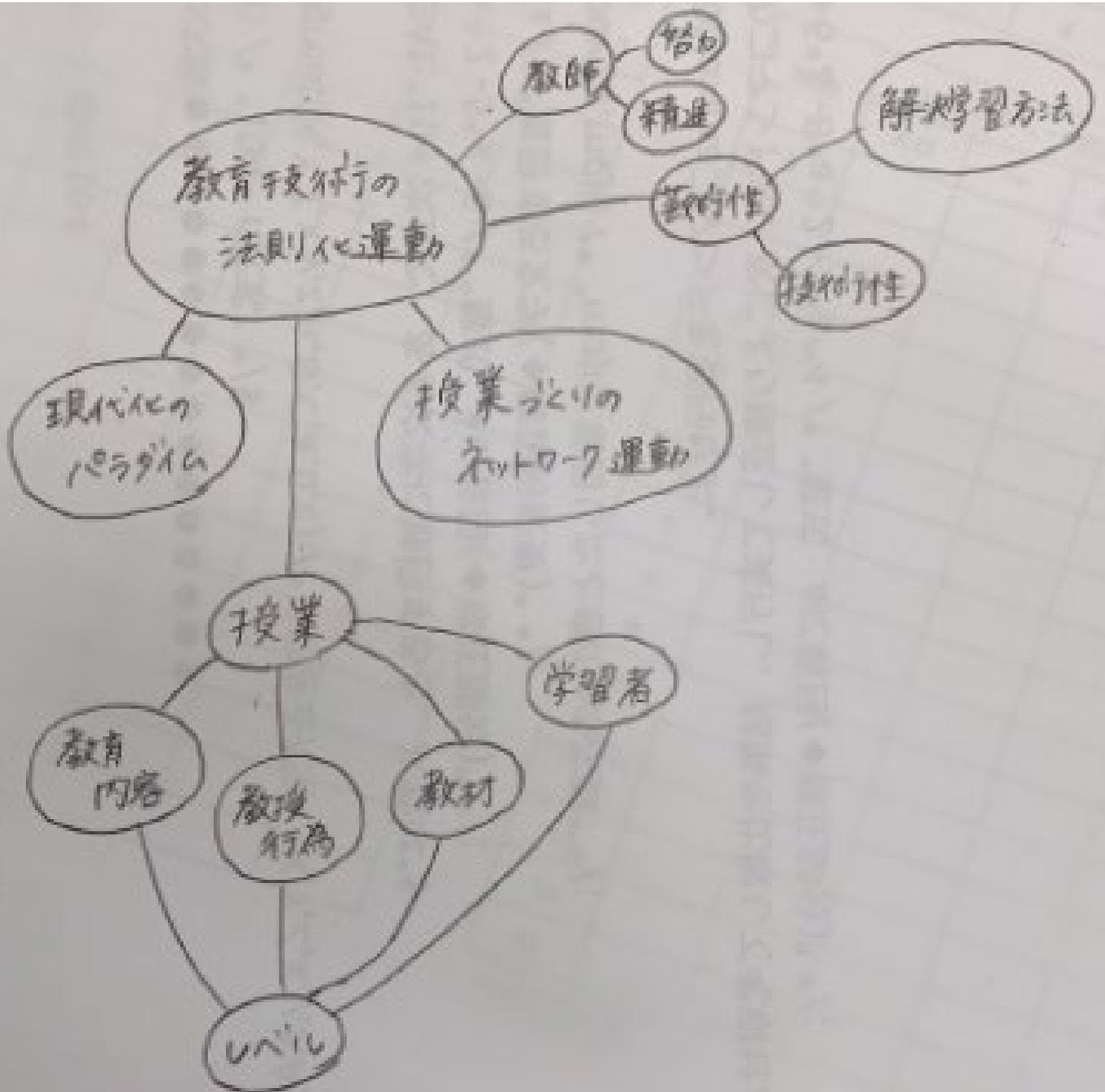
- ポイントD 既存の法則化運動はTOSSEという
- 2) 元来存在した教育技術は存在しない
 - 3) 自身の学級に適した方法を選択するのは教師自身
 - 4) 教育技術はさまざま

(4) 自分の意見
全体の要点● 昔から今への流れ

- ポイントD 昔は教育技術は共有財産化できるかについて問われる
- 2) 現代も共有化について考えられている
 - 3) 教育技術には決まった定義はない
 - 4) そのため、学習指導要領には書かれていない

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (3) <https://info157536.wixsite.com/tosch/abtloss>



2 教育目標に関する基本的な考え方

教育方法論 第4回 テーマ「教育目標に関する基本的な考え方」

(1) 「新しい時代の教育方法」より

教育目標は内容や能力だけではなく、育成の3つの柱から様々な区分に細かく分けて、年齢に応じた発達課題や教育評価の方法や基準を規定して目標を決めていく。そして、子たちの授業内でのつまずきに築きながら教育目標を練り直していくべきであるとされている。

ポイント)

- ・教育の目標とは、内容と能力との掛け合わせである
- ・3つの柱の区分から、読解力や数学的リテラシーそれぞれの3能力を反映させた課題を考案している
- ・到達目標は構造的に個人の達成度を評価、方向目標は領域一般的に広く形成し方向性を評価、体験目標は授業プロセスにおいて体験として実現させることである

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

教育目標は校内を見て設定していくのではなく、地域や家庭、現代社会の必要となるスキル等を見ながら設定していかなければならず、中学に関しては複数の教科も意識しながら設定していかなければならない。

ポイント)

- ・育成を目指す資質・能力の明確性や、地域との実態、教育的価値が高く自足的であるなど様々なことを踏まえる必要がある
- ・高校では1教科の枠組みを踏まえ整理されているが、中学では教科横断的になって整理しなければならない
- ・教育課程の中のカリキュラム・マネジメントを踏まえた学習基盤となるものが求められている

(3) ネット資料から(長所・短所等)

教育目標は授業や学校生活内で重要となるものであるが、実際に明確化している学校が少なく、成果が出ているところが少ないのが現状となっている。

ポイント)

- ・具体的な仕組としての教育活動に直結するような目標を設定している学校は非常に少ないのが現状であるが、数値や行動をしっかりとしたところでは成果を挙げている
- ・ユニークな目標を立てると批判が出てしまうが、これが出来ないと達成できない
- ・中央教育審議会の答申でも、教育目標の明確化を訴えているが現実となっておらず、徹底的なわかりやすい教育目標を設定すべきである

(4) 自分の意見

学校教員は一点だけを見て設定していくのではなく、学校周囲もよく観察しながら様々な目標の設定を細かくしていかなければならないのが現状である。また、生徒にもわかりやすくする必要もあり今までの目標設定から変化させなければならない。

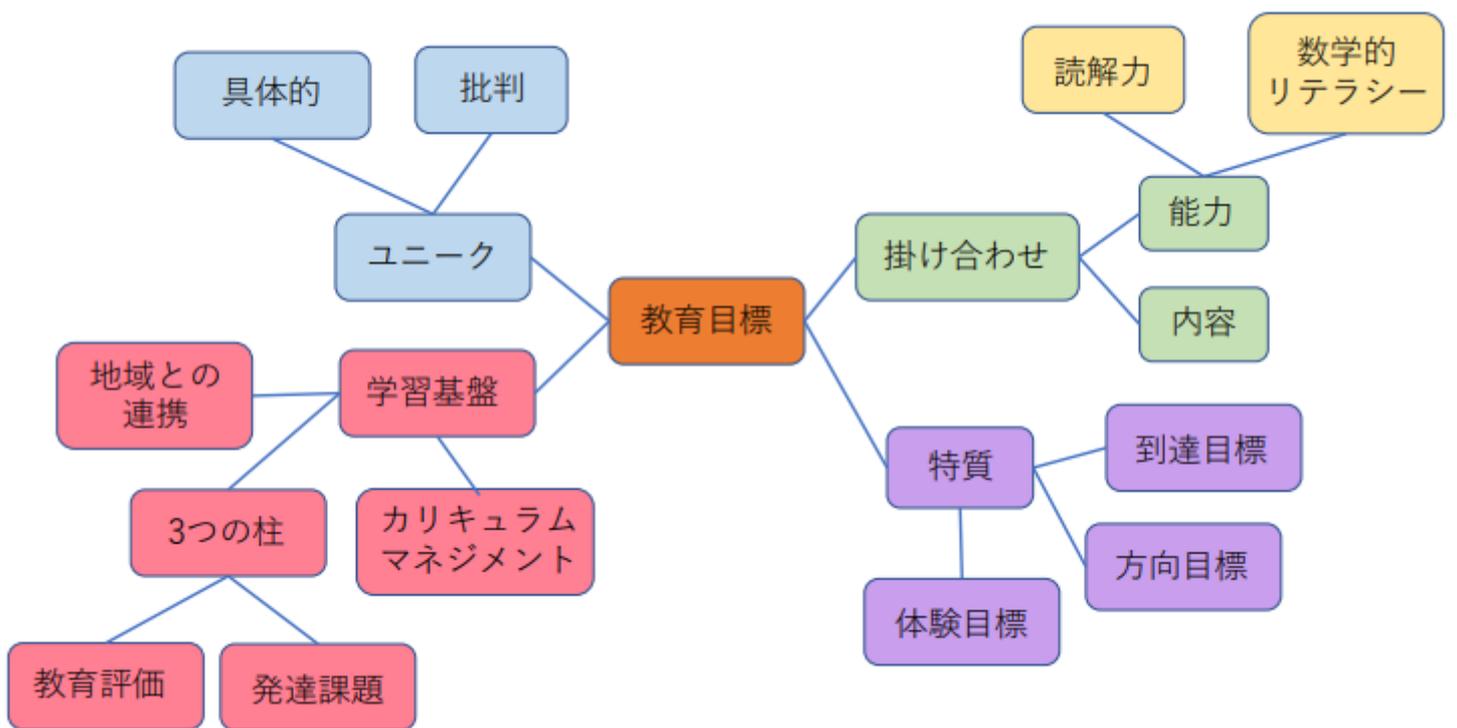
ポイント)

- ・教育目標は学校だけでなく生徒たちに関係があるので、明確化した方が良い
- ・社会情勢だけで必要なスキルを身につけさせるための教育目標は設定すべきでない
- ・3つの柱については注意して設定していくべきである

(5) 出典(参考文献、URL 等)

- ・新しい時代の教育方法
- ・文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」 pp.47 ~ pp.54
- ・文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」 pp.51 ~ pp.57
- ・北極星のような教育目標でよいのか | 日本文教出版 Web サイト

(URL : <https://www.nichibun-g.co.jp/library/kyoiku/bn067.html> 2019/10/16 参照)



3 教育目標・内容の諸相

教育方法論 m 第 4 回

テーマ「教育目標・内容の諸相」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●形式を学ぶ形式陶冶と内容を学ぶ実質陶冶。ブルーナーの発見学習の提唱。探求学習の推奨。教育の目標を構造化するカリキュラム(教育課程)の開発と評価。教育の目標を分析する課題分析と目標分類。教育の目標を具体化する教科内容と教材・教具。

- ・古典や数学の学習を通じて一般的な形式的能力を高めようとする立場を形式陶冶説という。
- ・知識や技能を獲得させようとする立場を実質陶冶と呼ぶ。
- ・ブルーナーは、子どもが現象を説明できるような科学的説明を主体的に見出すことを目標とする発見学習を提唱。
- ・教育課程は、教育目標、教科内容、教材、授業過程、評価過程を含んだ教育活動全般をさす概念。それを適切に行われたかを評価し改善策を立てるのがカリキュラム評価である。
- ・学習活動を行うために教材・教具を用いる。

(2) ネット資料「教育課程の基本的な考え方」から

全体の要点●自ら学び、自ら考え、自ら判断し、自ら行動するという生きる力の学力観は現在も異論がないのではないか。現行学習指導要領の理念や考え方に誤りはないが、実際にねらいが達成されているか、必要な手立てが十分講じられているかに課題がある。基本的な考え方として、「生きる力」の育成を目指すことはますます必要になっている。学校と家庭や地域が連携をとりながら生徒指導、学習指導に取り組んでいくことが必要。学習指導要領は枠組みであり、学校は、それを実現するために学校の組織力をどうつくっていくかを考えるべきである。

(3) その他のネット資料「学校における教育課程の構成」から

全体の要点●教育課程とは、学校の指導のもとに、実際に児童・生徒がもつところの教育的な諸経験、または、諸活動の全体を意味している。児童・生徒の教育課程は、地域社会の必要、より広い一般社会の必要、およびその社会の構造、教育に対する世論、自然的な環境、児童・生徒の能力・必要・態度、その他多くの要素によって影響されるのである。教育課程の構成は、本来、教師と児童・生徒によって作られるといえる。

(4) 自分の意見

全体の要点●形式陶冶と実質陶冶のそれぞれの利点を上手く利用して、教育課程の構成を考えてその時代にあったものになるようにしていく必要がある。

- ・形式陶冶と実質陶冶の比較。
- ・教育課程(カリキュラム)の構成と課題について。
- ・学習活動をとしての目標とそれを実行するための教材・教具。

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1396337.htm
- (2) <https://www.nier.go.jp/guideline/s26ej/chap3.htm>
- (3)

形式を学ぶか

内容を学ぶか

形式陶冶

実質陶冶

カリキュラム評価

カリキュラム

カリキュラム開発

教育目標

再検討

具体化

教材

教具

4 ICT活用例

ICT 活用例

1 班

1. 単 元

理科

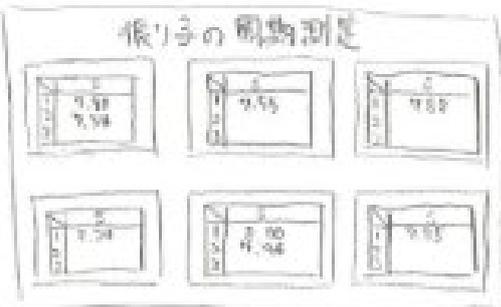
2. テーマ

ICTの物理・化学実験への応用。

3. ICT 活用のねらい

- ・ 実験活動の円滑化。
- ・
- ・

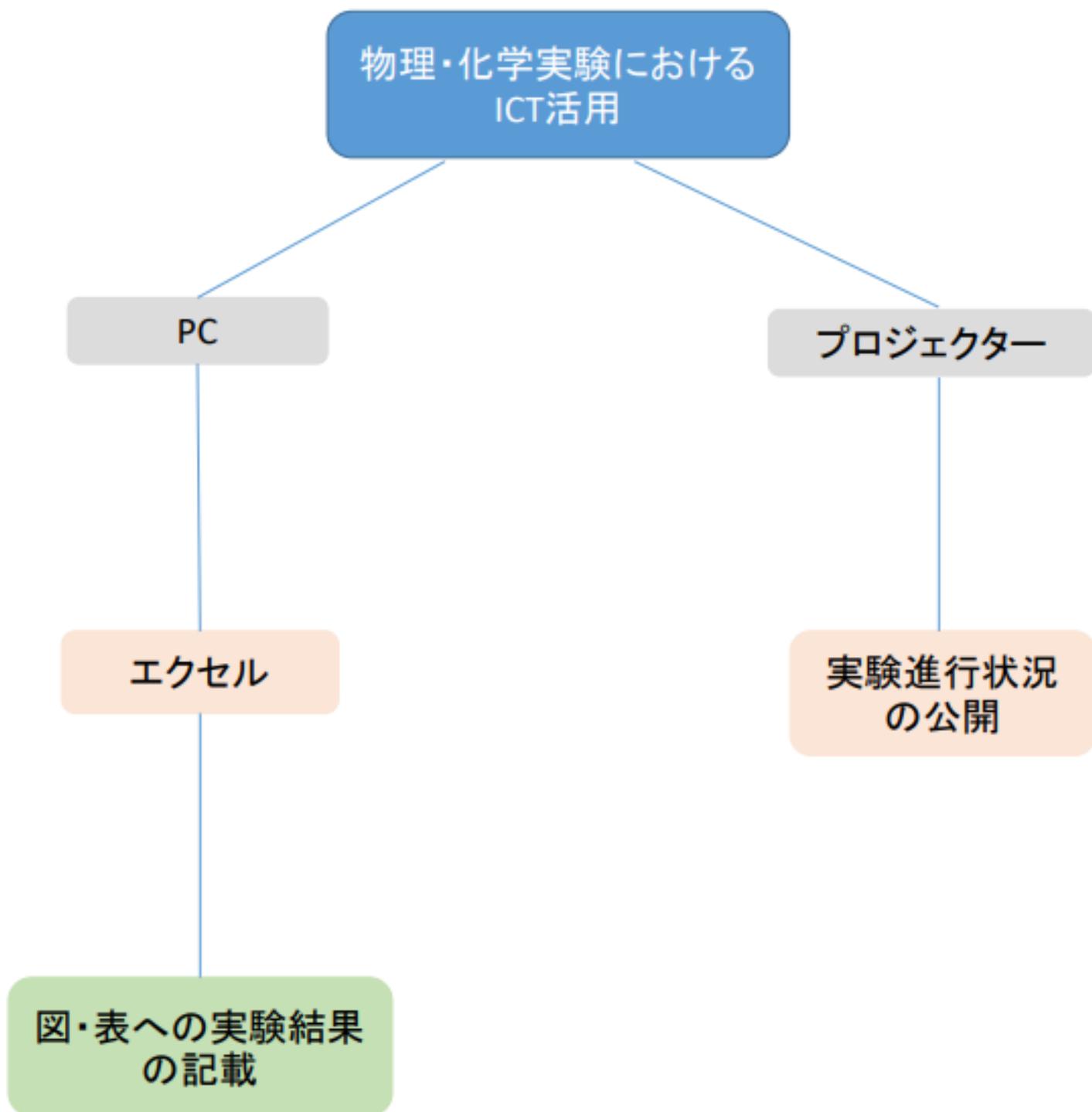
4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
<p>ICT 活用の場面 (理科)</p> <p>物理・化学の実験で、生徒に測定を進めさせながら測定結果をエクセルに入力させ、その様子を前の大きなスクリーンのようなものに映させる。</p> <p>それによって生徒は他の生徒との測定結果の違いを逐次確認でき、自分の測定の正確性も見直すことができる。</p>	<p>ICT 活用の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各自(または各班)の生徒のPCをそれぞれに対応したプロジェクターに接続させる。 ○そのエクセル画面を前の大きなスクリーンに映させ、測定結果またはグラフを映写させる。 ○測定を進めさせ、得られたデータを表またはグラフに順次記入させる。 <p>イメージ図など</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒全員に必ず同じ測定をさせる ○ ○
備考	<p>使用教科書 「・・・」(〇〇社)</p> <p>準備物 ……プロジェクター、生徒のPC</p> <p>授業形態と工夫 ……</p>	

5. 出典・参考等

- ・ http://www.jsse.jp/~kenkyu/201631/03/20163103_41~44.pdf
- ・ 「理科教育におけるICTの活用に関する研究 ―デジタル教科書の機能に着目して―」 43ページ

ICT活用例



5 確認問題03

教育方法論 m

第 3 回

確認問題 03

(1) 問題解決学習論争において問われたポイントは何にか。2つ挙げよ。

知識観

問題解決の質

(2) 次の空欄を埋めよ。

(広岡亮蔵) の学力モデルは、態度を中心として、(科学) と技術、(芸術) と技能の(三層) 説
(勝田守一) の学力モデルは、(認識能力) を重視した(計測可能) 学力説
(中内敏夫) の学力モデルは、広義の(知識) が学習者によってこなされた状態を(習熟) と呼ぶ段階説

(3) 「わかる授業」との対比で川合章が主張した「たのしい授業」の主張に込められた3つの意義を簡潔に述べよ。

- 子どもたちを単に知識の受け手として受動的にとらえたことも反省している。
- 多様な学習形態を通じて学習を深められる。
- 学習集団の役割を活かしている。

(4) 「学力における基礎についての4つの解釈」「第二次世界大戦後の新教育においてコア連が提起したこと」「いわゆる現代化の動向の主な主張」のうちの1つについて簡潔に述べよ。

・第二次世界大戦後の新教育においてコア連が提起したこと。

学習指導要領の主旨をより合理的に実践するため、統合した生活学習を行う「中心課程」と従来の教科を配列する「周辺課程」との2課程を提起した。

いわゆる現代化の動向の主な主張は現代の科学技術に比して、学校で教えられる教育内容や教科内容時代遅れになっているという認識を基に現代科学の内容と方法をもって、教育内容、教科内容をドラストックに再編すべきであり、かつその新しい教科内容は子どもたちにとっても学習可能であるという主張

学力における基礎についての4つの解釈
全ての学習の基礎であり、実生活においても不可欠な3 R'sとしての基礎学力
それぞれの教科学習にとって基礎となる教科内容としての基礎学力
国民的教養として少なくとも義務教育段階までに共通に獲得してほしい教育内容としての基礎学力
学力構造における基礎部分としての基礎学力

**) 確認問題 02 を自己評価し、

気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価 (4)

■ 戦後から現代にかけての教育方法学の展開の仕方も、この確認問題を通してより理解できたように思う。

学力モデル

中内敏夫

広岡亮蔵

三層

勝田守一

習熟

広義知識

態度

技能

計測可能な学力

理解

知識

技術

認識能力

